

1. 青年期に親から離れて精神的に自立すること。乳児と乳離れとの比喩。 1
2. **PERSON** 19・20C、アメリカの女性心理学者。幼児期が母親から肉体的に離乳する時期であることと対比して、青年期を「心理的離乳」期と呼んで、親から精神的に自立する時期であるとした。 2
3. 対人関係の距離の取り方。近づきたいけど、傷つけたり傷つけられたりするのが怖い。 3
4. 20世紀米の心理学者エリクソンによる青年期の発達課題として説いた、自我同一性や自己同一性、主体性を意味する言葉。 4
5. 自意識過剰や否定的アイデンティティ（「どうせ私は…」）、モラトリアム人間（「子どものままでいたい」）、ヒーターパン・シンドローム（ヒーターパン症候群。「大人になりたいくない」）などに代表される心理状態。「何とかしなければならぬことはわかっているのに、どうしたらよいかわからない」。 5
6. **PERSON** アイデンティティを青年期の発達課題とした20世紀米の心理学者（モラトリアムもこの人が重視した考え方）。 6
7. 豊かさに由来する社会的な自立の遅れが招いた「かいしょ」のなさ。うまく立ち回る「社交性」とは異なるので注意。 7
8. 高度情報化社会に由来する仮想世界への現実逃避。日本でも解禁された「セカンド＝ライフ」にもその危険性が…？ 8
9. 投票率の低下などにみられる社会意識で、傍観者的な態度にも通じる関心のなさ。 9
10. 若者の新しいライフスタイルとして、スポーツ・クラブに通うなど自分の健康や体調を管理すること。 10
11. ボランティア活動などに典型的にみられる、共に生きる社会の一員であることの意識。 11
12. 人生観や世界観に代表される個々人の価値の尺度や見方・考え方。 12
13. 価値観を養い身につける上で有効な、歴史上の哲学者や宗教家といった思想家の生き方や考え方に学ぶこと。 13
14. B.C. 4世紀ギリシアの哲学者アリストテレスの人間観。社会的存在。 14
15. 17世紀仏の哲学者パスカルの人間観。弱く死すべき存在だが思考する。 15
16. 18世紀英の経済学者アダム＝スミスの人間観。「経済人」。 16
17. 19・20世紀仏の哲学者ベルグソンの人間観。「工作人」。進化論が背景。道具を作り、使って環境を人間に都合よく変化させて進化してきた存在。 17
18. 19・20世紀蘭の歴史家ホイジンガの人間観。「遊ぶ人」。好奇心にもとづく遊びを通して文化を創造する存在。 18
19. 18世紀スウェーデンの博物学者リンネの人間観。「知恵ある人」。 19

T. Q. 「アイデンティティ確立の目的と手段とは？」

T. A.

青年期の若者には、まだ自分がどのような人間かについての確信や将来の展望がなかったりして否定的になったり、アイデンティティの危機（拡散）に陥ることがある。そこで「…としての自分」を場面ごとに使い分けつつ、一貫した自分を保つことで自我同一性が確立され、自己が形成される。